

IoTを活用した高齢者の見守り・緊急通報システム

- 高齢者の急な体調変化に対応可能なウェアブル端末による見守り・緊急通報システムを開発。
県営住宅永江団地の単身高齢者世帯を対象に令和3年9月から試験運用を開始
- LPWAを活用し、県営住宅入居者でも利用しやすい利用料の設定を実現(550円/月)
※LPWA:低消費電力で長距離通信が可能な無線通信技術で、IoT分野の通信に広く活用されている
- ウェアラブル端末では、体温、脈拍、SPO2、歩数、睡眠度の計測、データ蓄積が可能なので、健康管理、フレイル予防にも活用可能

見守り・緊急通報システムの概要

- 人感センサーとウェアラブル端末で、異常を感知して見守り事業者(こうほうえん)とご家族等に即時通報。
- Eメールで通報を受けた見守り事業者が、電話・かけつけ等により高齢者の安否を確認。

<緊急通報の条件>

- ・ 人感センサーが12時間以上、動作しなかった場合
 - ・ 火災警報器の警報音を感知した場合
 - ・ 脈拍数が60回/分以下の場合
 - ・ 血中酸素飽和度(SPO2)が90%以下の場合
- ※脈拍数及び血中酸素飽和度については個人差があることから、初期設定時に実測して通報に係る設定値を調整。

<システムイメージ>

